

●指導計画 【中学2年指導案】

○主題名 「郷土の一員としての自覚」 (C16) 郷土を愛する態度

○ねらい 悩みや苦しみをもちながらも自分の根っこである郷土を見つめ、再び田んぼの復活に立ちあがる三蔵さんの思いを通して、郷土の一員としての自覚を持ち、郷土を愛し、進んでその発展に貢献しようとする心情を育てる。

○教材名 「三蔵さんの田んぼ」 (出典:「中学生の道徳2 自分を考える」廣済堂あかつき)

○学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (○基本発問 ◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 題材について、関心をもつ。	○この写真を見て、どう思いますか。 ○この場所はもともと何だったと思いますか。 <b>自分ごととして捉えさせる。</b>	○東日本大震災による津波で被害を受けた田んぼと、稲がたわわに実った(被害前)の田んぼを提示し、人々の悩みや苦しみを想起させる。
展開	2 教材を読み、気になったことについて話し合う。  3 三蔵さんの郷土に対する思いや願いについて考える。  4 郷土に対する自分の思いを見つめる。	○教材を読んで、どう思いましたか。 →地域の農業を支えてきた三蔵さんは絶望感を持っただろう。 →自分だったら、あきらめるだろう。  ◎空を舞う鳶を見た時、三蔵さんが涙したのは、どんな思いからだろう。 →自分の根っこ(生きる場所)は、ここにしかない。 →犠牲となった人々の願いを受け継ぎ、元のような風景にもどしたい。  ○あなたは自分の「郷土(ふるさと)」と、どのように関わっていこうと思いますか。 <b>将来像をイメージさせ、自分との関わり方について向き合わせる。</b>	○自由に感想を持たせるとともに、グループ協議で他者の意見と交流させる。また、全体交流の場をもつ。 <b>多様な考えに触れさせる。</b>  ○三蔵さんの絶望と苦悩を理解させるとともに、そこから立ち上がろうとした思いが、どこから生まれたのかを想像させる。 <b>根っこである、郷土のもつ意味を考えさせ、自分のことばで表現させる。</b>
終末	5 本時の感想を書き、個人の振り返りの時間をもつ。	○この学習を通して、どのようなことを感じたり、考えたりしましたか。 <b>今までの郷土との関わりを想起させ、自分のことばで整理させる。</b>	○「花は咲く」の動画を見る。  ☆地域社会の一員としての自覚を持ち、郷土を愛し、進んでその発展に貢献しようという意欲をもつことができる。